

## JRは1047名解雇の責任をとれ! 今こそ国鉄分割・民営化一新自由主義に断を



### 国鉄1047名解雇撤回闘争の前進—JRを 「裁判当事者」として17年ぶりに闘いの土俵に

国鉄1047名解雇撤回闘争で、大きな前進がかちとられています。

9月2日、東京地裁はJR東日本の訴訟参加の決定を出しました。JR東を17年ぶりに裁判当該

として闘いの場に引きずり出したのです。

国鉄分割・民営化は、今の新自由主義攻撃の出发点でした。11月集会運動も「国鉄解雇の責任はJRにない」とする反動

闘いは、国鉄分割・民営化の隠された真実をすべて暴きました。

判決への危機感の中から出発しました。この分割・民営化攻撃に労働者の側から決着をつけ、新自由主義を終わらせる闘いの展望が切り開かれています。

判決への危機感の中から出発しました。この分割・民営化攻撃に労働者の側から決着をつけ、新自由主義を終わらせる闘いの展望が切り開かれています。

動労千葉・  
動労総連合の

全員が直前まで採用名簿に掲載されていたこと。動労千葉など国鉄分割・民営化に反対する組合員をJR採用から排除する不当な目的で、名簿不記載基準が作られたこと。それを指示したのが齋藤JR設立委員長であり、直接名簿の排除を行ったのが葛西敬之JR東海名誉会長、深澤JR東日本社長らであったこと。

すでに名簿不記載基準の作成が不当労働行為であることは最高裁で確定しました。JR自身の不当労働行為で1047名

が解雇されたのです。結論は「解雇撤回・JR復帰」以外にありません。

このことを問う裁判からJR東は「当事者ではない」「無関係だ」と逃げ回ってきました。そのJRをついに闘いの場に引きずり出したのです。闘いは「勝利まであと一歩」です。

9月29日の裁判でJRは出廷を拒否しました。しかし、「裁判当該」であることを動かすことはできません。JRを法廷に引きずり出し、裁判所に審理を尽くさせ、すべての真実を明らかにさせなければなりません。

そのためには「解雇撤回・JR復帰・団交開催」署名運動を拡げ、11・7集会への結集を呼びかけよう。